

# WEEKLY

# 一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

# Rotary



## The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日  
●事務局 一宮市栄4-2-1 一宮商工会議所内 電話(0586)24-1931 ☎491-8686

## ロータリーに輝きを

URL:<http://www5.ocn.ne.jp/~rc138/>

E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)

## 2015年5月7日 第3200回例会

会 長 磯部 茂 幹 事 則竹 伸也  
会長エクト 猪子 誠児 副 幹 事 桑原 英寿  
副 会 長 加藤 恭平 広報会報委員長 小島 幹人

### プログラム

#### イニシエーションスピーチ

服部昌志君 テーマ「自己紹介」

木崎真樹君 テーマ「自己紹介」

辰 守弘君(5月21日) 土川保夫君(5月22日)  
田中由美君(5月24日) 豊島半七君(5月26日)  
山上哲司君(5月26日) 松原直次君(5月28日)  
栃倉 勲君(5月28日)

### 第3199回例会の記録 2015年4月23日(木)

国 歌「君が代」  
ロータリーソング「奉仕の理想」

#### 会長挨拶

磯部 茂

先週の菜種梅雨のような天候から一変、今日からは初夏を思わせるようなお天気が続くとの予報です。身体の方がついていけない様で我ながら年齢を感じさせられています。

#### 5月度の例会プログラム

- 7日 イニシエーションスピーチ 服部昌志君 木崎真樹君
- 14日 クラブアッセンブリー 地区研修・協議会報告
- 21日 卓話 増竹ゆかり氏(ソムリエ)
- 28日 卓話 安田文吉氏(東海学院大学教授)

先だって地区からの連絡があり、内容は本年6月30日をもって奥三河ロータリークラブが解散しR1からの脱退申請をするというものでした。

#### 会員誕生日おめでとう

- 栃倉 勲君(5月 1日) 青山佳裕君(5月 7日)
- 林 隆 春君(5月13日) 辰 守弘君(5月21日)
- 間瀬道男君(5月23日) 速水英一君(5月28日)

奥三河ロータリークラブは1970年に豊橋北ロータリークラブのスポンサーで創立された45年の歴史あるクラブです。現在の会員数は15名、うち女性会員が3名と会員増強の努力にも拘わらず、山間部に位置するという地理的な事情や若年層会員の増強が困難といった状況があったのでしょうか、解散という結論に至ったようです。

#### 会員夫人誕生日おめでとう

- 森 隆彦君夫人 克 江様(5月 4日)
- 青山佳裕君夫人 和 美様(5月 5日)
- 内田 勉君夫人 英理子様(5月 9日)
- 川松保夫君夫人 康 子様(5月13日)
- 林 隆 春君夫人 一 子様(5月17日)
- 關戸 潔君夫人 邦 子様(5月20日)
- 佐々木久直君夫人 詔子様(5月21日)
- 佐々憲一君夫人 みどり様(5月21日)
- 辰 守弘君夫人 ひで子様(5月24日)
- 伊藤幸一君夫人 景 子様(5月29日)
- 加藤数也君夫人 ひさ子様(5月29日)

翻って私たち自身のクラブのことを考えてみた時、65年という歴史と伝統に支えられ安定したクラブ運営ができていることに感謝しなければとつくづく思います。

#### 結婚記念日おめでとう

- 墨 芳郎君(5月 5日) 白木規博君(5月 5日)
- 長谷川勝久君(5月 5日) 加藤恭平君(5月 7日)
- 森 俊夫君(5月 8日) 森島勝美君(5月10日)
- 鈴木洋志君(5月12日) 足立 誠君(5月13日)
- 服部昌志君(5月20日) 浅野 一君(5月21日)

#### 委員会報告

##### 出席報告

副SAA

坂井田敏行

現在の会員数	90名
本日のビジター	0名
本日の出席数	41名
他クラブ出席数	15名
本日の出席率	62.22%
前々回の出席率	96.10%

##### ニコボックス

☆ 青山佳裕君

卓話として、(株)UACJ 吉田英雄顧問をお迎えした喜びで、「超々ジュラルミンと零戦」のお話しをしていただきます。

☆ 磯部 茂君 則竹伸也君

本日、卓話の講師に吉田英雄氏をお迎えした喜びで。

### 次回の予定

クラブアッセンブリー  
地区研修・協議会報告

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*  
 卓話  
 吉田英雄氏  
 (株)UACJ 技術開発研究所顧問  
 テーマ「超々ジュラルミンと零戦」



アルミニウムに銅とマグネシウムを添加した合金を焼入れしてから室温で放置すると硬くなるという現象が1906年ドイツで発見され、この合金はジュラルミン(Duralumin)と名づけられ工業化された。この材料は高強度で軽いためツェッペリン飛行船の骨組みに利用された。第一次世界大戦でドイツはこの飛行船で連合国の英国やフランスを空襲した。撃墜された飛行船もあり、米国や日本の海軍はその骨組を持ち帰って、アルコアや住友に分析させ、ジュラルミンと同じ材料を作らせた。米国ではジュラルミンは17Sと呼ばれたが、さらにこの材料より高い強度の超ジュラルミン材料の開発が行われた。

1928年アルコアはジュラルミンにけい素を添加して17Sより10%強度アップした14Sを開発した。しかしながら曲げ加工性に劣るため、さらに曲げ加工性の良い材料が検討され、24Sが開発された。強度は14Sと同等であるが、伸びが高いのが特徴である。24Sは耐食性が劣るため、表面に純アルミニウムを皮材としてくっつけた合わせ板が開発され、胴体のスキン材に現在も利用されている。日本でも超ジュラルミンの開発がおこなわれ、1934年には14Sに近い材料が陸海軍の材料規格に登録されたが、1935年には急遽24Sと同等の材料が製造され、これが超ジュラルミンとなった。これは24Sが超ジュラルミンとして加工性が良好なことや純度の良い地金が入りやすくなったことが関係している。海軍からは米国の24Sよりもさらに強度の高い合金の開発要求がだされ、他社からも高強度合金開発の情報が流れてきて、住友では1935年10月五十嵐勇博士を中心に研究開発が開始された。高強度、加工性、耐力腐食割れ性を考慮した系統的な合金開発により、

亜鉛、銅、マウネシウム、クロムが添加され、24Sよりも20%強度アップした超々ジュラルミンが開発され、1936年6月には特許が出願された。この高強度合金に注目したのが、三菱重工の主任設計技師の堀越二郎氏である。この合金を主翼の桁材に使うと30kg軽くなると試算し、海軍に許可願いを出すとともに使用が許可され零戦(図1)に採用された。その結果零戦は従来機に比べ速度が100km/hもアップし、さらに長距離飛行できる機体となり、向かうところ敵なしの状態になった。しかし、アリューシャン列島で米軍により無傷の零戦が捕獲されると、徹底的に調査され、弱点も明らかとなった。また超々ジュラルミンも調査され、1943年アルコアは同じくクロムを添加し75Sを開発した。この合金は7075合金としては現在もまだ航空機の主要な構造材料であり、現在の航空機材料の産みの親は日本が誇る超々ジュラルミンにあるといえよう。現在、三菱重工によって民間航空機MRJ(図2)が開発されようとしている。戦後の航空機用アルミニウム合金開発は欧米が中心であるが、我々も超々ジュラルミンを超える国産材料を開発し、MRJに搭載してもらえようになりたいと頑張っている。



図1 零式艦上戦闘機



図2 三菱リージョナルジェット機

例会変更案内

クラブ名	例会日	例会場	受付
尾西	5月11日(月)	尾西信用金庫本店	有
一宮北	5月15日(金)	一宮商工会議所	有
一宮中央	5月27日(水)	一宮商工会議所	17:30~ 有

※ 時間に指定のないクラブの受付は12:00~12:30です。